調 査 報 告 書

委員会名	経済文教常任委員会
派遣委員	７名
調査目的	経済文教委員会所管事務調査のため
行　　先 及び 調査事項	ＮＰＯ法人ハートフルコミュニケーション（品川） ：学校デビュー応援プログラムについて 原宿（原宿表参道元氣祭 スーパーよさこい 2016）：現地視察 大田区立馬込小学校：学校デビュー応援プログラムについて モトスミ・ブレーメン通り商店街：商店街の活性化について
日　　程	平成 28 年８月 28 日（日）～30 日（火）
報告事項	別紙のとおり

◇報告事項

○　ＮＰＯ法人ハートフルコミュニケーション（平成28年８月28日）

【調査事項：大田区で実施している学校デビュー応援プログラムについて】

（ＮＰＯ法人ハートフルコミュニケーション　菅原裕子代表理事，平松容見子理事ほか）

１．視察内容

（１）ハートフルコミュニケーションとは

○ 組織の人材開発，組織開発の仕事をしている菅原代表理事の子育てが発端。子どもを育てるとはどういうことかという疑問から，自分は大人を育てているが子どもを育てるのも同じじゃないかという考えにたどり着いた。

○ 子育てで一番大切なのは家庭教育である。親の力を上げていく必要がある。

○ 子どもの基本的な人格をつくること。学力をつけること。子どもが世の中に出たときに良い人間関係が持てるように，親が良い人間関係を周りとつくろう。ということを伝えて，仕事の合間に10年間１人で講演活動をしていた。

○ 周りに協力者があらわれて，ちゃんとした活動をするためにＮＰＯを設立。

○ 新宿区の教育委員会から入学前プログラムに参加して親のプログラムをやってみないかと声をかけられて，新１年生保護者向けプログラムを始めた。

（２）新１年生保護者向けプログラムについて

○ 「子どもの幸せな自立」のために親や子どもをとりまく大人たちが何をしていけばいいのかを提案するもの。

○ コーチングという考え方を取り入れているのが大きな特徴。

○ 家庭教育力の向上，親同士の繋がり，周囲とのネットワーク構築により親子の安心感が得られる。

○ この時期特有のものをテーマにした内容。台本を相当な時間をかけて練る（学校の先生の意向も聞きながら毎年見直す）。先入観のない状態で，学校・親同士・地域との信頼関係をつくることの大切さを重点的に伝えるようにしている

○ 最短の25分から，長くて100分のプログラムを用意している。

○ 参加型講座（グループワークを実施）⇒入学前に親同士の繋がりができる

○ 体験ワーク⇒子どもの体験をすることで自分のこととして考えられる。

○ 認定ハートフルコーチ

・ ハートフルコミュニケーションを学び，ファシリテータの訓練を受けた講師で，毎年オーディションを行って認定している。

・ 新１年生保護者向けプログラム担当コーチは全国で19名（うち１名男性）。

○ 新宿区のプログラム（入学前プログラム）は，全29校において学校単位で実施しており，ほぼ100％に近い保護者の参加がある。

○ 大田区（学校デビュー応援プログラム）は広いので，全体を４ブロックに分けて希望制で実施している。ＰＴＡの協力体制がしっかりとれている（受付から参加者誘導まで，講座にも参加）。

２．主な質問等

○ 参加者（父親・母親）による反応の違いはあるか。

・ 土日に開催すると，多いときは参加者の半分が父親の場合がある。

・ 父親の視点と母親の視点の境が徐々になくなっているという印象を受けている。

・ そもそもハートフルコミュニケーションは，親（父親・母親）に向けたメッセージ

を発信してきた。

○ 全ての家庭に向けて，オールマイティな台本をつくるのには苦労がいると思われるが，気をつけていることはあるか。（具体例：一人っ子はどうしてもわがままになるという発言をしてしまい，場がおさまらなくなった）

・ 誰かを否定したり，誰かが「えー」と思うような内容は一切入れていない。たった一人でも悪者をつくると，その場が良くない場になってしまう。全ての人が，今日は良かったと思ってもらう為に，毎年台本を直し，オーディションを行っている。

・ 新宿区では，７ヶ国語の通訳もするので，プラス文化的バイアスもかかるため，本当に下手なことは言えない。通訳を介してどうなるかまで責任を持たないといけない。

・ 本番を迎えるまでに行う練習のなかで，フィードバックの出し合いをし，それを聞いてさらに台本を修正する。

○ それぞれの家庭の環境だとかは違うわけで，なかなか親子の関係もうまいこといかない場合，個別のサポートや相談を受けるといったことはしているのか。

・ ＮＰＯでは個別に相談を受けている（オンライン(電話)で２回は話を聞くようにしている。１回目相談を受けて，その後どうなったかを確認しフォローするため)。

・ プログラムの後，相談を受けることもあるが，その場で返事ができない場合はオンラインや，各コーチが地元で「ハートフルセッション（少人数で子育てについて考える場)」を行っているので，そこを紹介している。

ハートフルコミュニケーションについて熱く語る菅原代表理事。委員の質問に，快く答えてくれました。

３．意見・感想等

○ 各市町村において，保・幼・認定こども園などと小学校の連携を深めながら小一プロブレム問題に取り組んでいるが，ＮＰＯが実施している「新１年生保護者向けプログラム」は新たな特色ある事業展開であり，興味深く大変勉強になった。

○ 「子どもの心のコーチング」を書かれた菅原裕子さんの説明は迫力があり，その手法に納得した。

○ 原宿表参道元氣祭　スーパーよさこい２０１６（平成28年８月28）

（原宿表参道元氣祭実行委員会　松井誠一実行委員長（商店街組合原宿表参道欅会理事長））

１．概要

○ 名称：明治神宮奉納原宿表参道元氣祭スーパーよさこい２０１６

○ 会期：平成28年８月27日（土）～28日（日）の２日間

○ 会場：原宿表参道，ＮＨＫ前ストリート，代々木公園ステージ，原宿口ステージ等
○ 参加チーム：１０２チーム（高知県からも１９チームが参加）
○ 観客動員：８３万人（2015年度実績）
○ 今年で１６回目を迎える。

２．視察内容

スーパーよさこいの案内看板。一足先に踊り終えたチームが記念撮影していました。

用務で訪れていた尾﨑知事・岡﨑市長と記念撮影。

時間の都合で表参道に見に行くことはできませんでしたが，原宿口ステージでは表彰式を前に最後の演舞が行われていました。観客数も大変多く，中でも外国人の多さには驚きました。

よさこい発祥の地，高知を代表して尾崎知事が挨拶。東京オリンピックによさこい祭りをと，熱く呼び掛けていました。高知県知事賞・高知市長賞などの特別賞７つが発表され，最後にその中から元氣祭大賞が選ばれました。今年の大賞は東京の「しん」というチームで，実行委員長である松井理事長より賞の授与がありました。

３．意見・感想等

○ 時間があまりなく，全体的なシチュエーションを見学することができなかったが，人出の多さには驚かされた。

○ 東京オリンピック・パラリンピックの2020年は，明治神宮が現地に建設された1920年から100年の慶事となり，また，スーパーよさこい2020が第20回目の開催となる。大きな夢によさこいをのせてスーパーよさこいを世界に発信しようという松井実行委員長の思いと，尾崎知事の世界によさこいを広げようという思いに感嘆した。

○ 優勝チームの音楽・振付については最高だと思ったが，本来のよさこいからやや逸脱している感があった。

○ 100万人を超える観客が集まるので，高知をアピールするための施策を数多く展開して欲しい。

○ 大田区教育委員会（平成28年８月29日）

【調査事項：学校デビュー応援プログラムについて】

（大田区教育委員会事務局　曽根暁子教育総務副参事）

１．大田区の概要

○ 人口　　７１６，４４９人

○ 面積　　６０．６６平方キロメートル

２．視察概要

（１）大田区の現状

○ 小学生：約２万８０００人

○ 田園調布から始まり羽田空港の端まで，土地の利用で言うと第一種低層住居専用地域から工業専用地域まで全ての区分があり，生活の様子も所得の高い層から低い層まで差があるため，小一プロブレムの表れ方も様々。

（２）学校デビュー応援プログラム

○ 親子で学校へ行こう！と称し，大人の学習会と子ども教室を同時並行で実施。

○ 区立小学校59校を４地区で分けて，持ち回りで事業を実施（今までに18校で実施）。

○ 参加者は希望制で受付しているが，関心が高く定員数の30名を超える場合がある。その場合でも，会場のキャパがある限りは全員が受講できるよう取り組んでいる。

○ 子どもに関する様々な講座があるが，関心のある人しか集まらない。誰にでも訪れる子どもが小学１年生になるというタイミングが，一番効果があるのではないかと考えて実施している。

○ プログラム参加者は，子どもへの接し方がわかったと好感をもって帰られる方が多い。

○ 入学前の夏休み中に実施。

○ 退職された元校長から話を聞くという冬のプログラムも実施している。

○ 本年度からは入学後の夏前に大田区の１カ所で（１回）フォローを行っている。

○ 平成22年度から実施している。

（３）小一プロブレムに関して

○ 幼児教育センター

・ 職員：元幼稚園教諭や元保育士

・ 就学前教育から小学校教育への円滑な接続に関する調査研究活動の実施

・ 連携に係る研修等の推進，就学に向けての情報連携の推進

３．主な質問等

○ 大田区ではこのプログラムの実施に関して，ＰＴＡのお手伝いがあると伺ったが，学校とＰＴＡの関わりが深いのでしょうか。

・ 大田区には２１６の自治会があり，かなり地縁の深い地域で地盤ができている。その中に学校があって，土地の方が関わりＰＴＡを代々されてきた。そういった歴史を受け継いできた経緯がある。

・ 幼児教育センターは直接ＰＴＡとの関わりはないが，ＰＴＡと学校とで講演会や研修といった場はたくさんある。新宿区では保護者会でそういった企画をおり込んでいて一歩進んでいると感じており，大田区でも取り組みたいと思っている。

○ 今まで事業をやってこられて，要望はあったか。

・ 「地元でやって欲しい」という要望はあるが，教育委員会主催で行っているのでこれ以上回数（校数）を増やすことは難しい。

・ 地区での募集だが，やはり実施学校の周辺からの申し込みが多い。

○ 今まで事業を継続されるということは，保護者や教育委員会からもある一定の成果が得られているということですか。

・ 全体から見るとわずかではあるが，違った気持ちになって小学校入学を迎えられる方が１人でも増えるということは重要なことだと思う。また，ＰＴＡの参加があることで，参加者の中からＰＴＡの主力となって活動してくださる方も出てきているので，そういう点では波及効果もあったと思っている。

○ 幼児教育センターについて教えて欲しい。

・ 大田区の課のひとつ。幼児教育者の質の向上，支援（講座なども実施）。

・ 学校デビュー応援プログラムとの直接の関係はない。

学校の図書室にて曽根副参事より説明を受けました。

４．意見・感想等

○ 保・幼・小の機関での連携以外に新入学を迎える保護者を対象としたプログラムの中身は大変勉強になった。

○ 大田区ではＰＴＡが独自に事業に取り組む場合に，講師派遣の助成制度の活用が可能とのことだったが，本市にはその制度はあるのだろうか。

○ 心配して参加される保護者には問題ないと思うが，無関心な保護者をどうするかが今後の課題と考える。

○ 大田区・ＮＰＯ法人ハートフルコミュニケーション（平成28年８月29日）

【調査事項：大田区の学校デビュー応援プログラム（大人の学習会）現地視察】

（ＮＰＯ法人ハートフルコミュニケーション　平松容見子ハートフルコーチ（理事））

１．学習会の内容

『気持ちがぐっと軽くなる！入学が楽しみになるヒント』

～今日からできる家庭でのサポート～

○ 子どもの年齢と親の役割　～親が子どものコーチになるとは

保護者	→	親
できないをヘルプ		できるをサポート

↑ 保護者から親に完全に移行するのは６・７歳のとき

○ コーチとしてできること

・ 子どもの力に気づき，サポートすること

➢ 信頼関係をつくる

➢ 任せる

⇒ 考える → 行動 → うまくいく / うまくいかない

① 自信

② やる気

③ 問題解決力

言葉や環境による働きかけ

・ グループワーク（周囲の親と話すことで信頼関係をつくっていく）

✧ ここ最近，子どもができるようになったことを思い出す。

✧ 子どもにできるようになってほしいことを考える。

✧ 自分のイライラする心をコントロールする方法。　…… 等

○ 子どもの心を受け止める方法

・ 体験ワーク：～子どもの話を『聴く』

✧ ２人１組で交代で親子役をこなし，親に言われた言葉を体感する。

聴く ＝ 受け止める，繰り返す

○ ひび割れ壺

進行役の平松ハートフルコーチ。母親の参加が多い中，ご夫婦で参加された父親が一人いらっしゃいました。

「ひび割れ壺」の朗読。

２．意見・感想等

○ 講演方式とは違いグループワークを中心とした「授業」で，保護者が２～４人のグループになり，講師からテーマを与えられグループで話し合う方式。想像以上に活発に意見交換されており驚いた。一方的に話を聞く講演とは違い，参加者同士で話し合う保護者間の交流でそれぞれの思いを受け止めることができ，評価する。

○ ワークショップは見事だった。

○ オープンスクールのように児童には模擬授業を，親には子どもの問題・言動に対して子どもが自立するような素敵な親の対処法をお教えしていました。

○ ＰＴＡの父兄がお手伝いで参加していることに心強く感じた。

○ 教育委員会・校長等によく理解され，一体感があった。

○ モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合（平成28年８月29日）

【調査事項：商店街の活性化について】

（商店街振興組合　伊藤博理事長，平本保事務局長）

１．視察内容

（１）モトスミ・ブレーメン通り商店街の概要

○ メインストリート約550メートルに沿って180以上の店舗が集まっている。

○ 28年前のまちづくりのコンセプト「中世ヨーロッパのロマンと語らい」のもとにネーミングされた（その当時はブレーメン市があることを知らなかった）。その後正式に名称の正式使用許可をもらい，その翌年ロイドパサージュ（商店街）と友好提携を結んだ。

（２）理事長の考え（持論）

○ 商店街が盛り上がるためには，やる気のある人・組織が必要。

○ さ　財政

・ 会費の徴収（店舗の大きさ等にもよるが，大体月に15,000円）。

・ 会費だけではコミュニティセンターを維持したり事務局を運営するには成り立たないため，商店街の駐車場やクレジット事業，事業系ゴミ袋の販売，ポイントカード事業等を行っている。

・ 商店街を運営していくためには，お金をつくらないといけないが，お金をつくるためには商店街の役員が片手間にやっていてはできない。

○ し　事務局

・ 事務局職員は平本事務局長１人。あとはパートの従業員，委託でお願いしているところで，年間の人件費が850万円ぐらいかかる。

・ 秋田県鹿角市を参考に導入。鹿角市全域で商工会が事務局として運営に当たっている。

・ 優秀な人材で事務局を整備するためには高い会費が必要となってくるので，高知市内で事務局をつくろうと思ったら，連合体で事務局をつくるということが必要となってくるのではないか。

○ す スタッフ・人

・ 若手の青年部が25人ぐらい。商店街の役員が20人。
・ ブレーメンバンドや，５人グループのバンド。オリジナルソングもある。
・ 仲間づくりが大事。
・ 若手の提案は極力やってみる。若手が育たないと商店街は衰退する。

○ せ 先見性

・ 環境問題への取り組み。エコバッグ。
・ 空を見せるため，電線を無くした。普段の維持管理が大変で，全体的に暗くなるためアーケードはつくらない。
・ バスが通行していたため，石畳の道路がガタガタになったので，10年前に道路を改修。琴平を参考に，半たわみ性舗装を採用。既設の赤御影石乱貼り平板を細かく砕いてアスファルトに混入して敷設，アクセントをつけるために切り込みを入れた。耐久性も良い。

○ そ 組織

・ ブロックに分けて役員がいる。
・ 各部署があって，その組織が円滑に動くということは非常に大事なこと。

（３）ＩＣポイントカード「ブレカ」

○ 会員数：約２万3500人。
○ 2015年９月に，磁気カード方式から非接触ＩＣカード方式へリニューアル。
○ 100円で１ポイントたまる。１ポイント１円で使うことができる。また，加盟店は１割増で換金することができる。
○ 従前使用していた磁気カードは端末自体の故障やカードのエラーが多く，できないことが多かった。しかし，新しい非接触ＩＣカード方式は，タブレット端末・クラウドを活用しており，端末代も最新のものでも約６万円と非常に安価であり，汎用性が高い。
○ 事務機能が簡素化された。

２．主な質問等

○ 自転車の通行規制はないのか。

・ 歩行者優先道路であって規制はないが，商店街の放送で自転車を降りてご通行くださいとお願いしている。最近，自転車と歩行者の事故が結構ある。

○ 駐輪場は構えてないのか。

・ 駅に通勤用の駐輪場（有料）が2000台分ほどあるが，商店街専用の駐輪場はない。
・ 少し離れたところに川崎市の駐輪場（有料）もある。
・ ６・７年前に放置自転車が全国でワースト１と言われ（3000台ほど），川崎市が放置自転車の監視員を巡回させている。

○ 街づくり育成条例について教えてください。

・ 壁面の色や公告物に関して街の景観を守る為に規制を設けている。年間９店舗ぐらい店が入れ替わるので，少しずつ進んでいる。店舗を立てた後に商店街に加盟したいというお話があったりもする。

○ 空き店舗はないのか。

・ ない。空き店舗になってもすぐに店が入る。

○ 商店主の方々の住居はどこにあるのか。

・ 店舗の２階に住んでいる人もいれば，離れたところから通っている人もいる。

○　商店街に住んでいる人の割合はどのくらいか。

・　かなり多い。ほとんどの方がここで生活している。

・　商店主が街に住んでいないと，商店街を運営するに当たっていろんな障害が出てくる。イベントなどはできない。

元住吉の駅を降りると，まず目に飛び込んでくるブレーメンの音楽隊の像。この像と後に出てくる豚飼いの像は北海道にあった廃業したドイツのテーマパークより寄贈を受けたもの。商店街を組合事務局まで歩く。平日の昼間でも人通りの多い商店街である。

メインストリートは12時から19時までの間歩行者天国となっている（看板の裏面にその旨の記載がある）。事務局１階は商店街のコミュニティセンターになっており，ここでもブレーメンの音楽隊が出迎えてくれた。この像はドイツの芸術家に寄贈してもらったもの。商店街の取り組みについて説明する伊藤理事長。

ポイントカードのシステムについて説明する平本事務局長。豚飼いの像。商店街のシャッターには，ドイツ・ブレーメン市の風景写真や，ブレーメン関連のイラストが描かれている。

３．意見・感想等

○　ブレーメンブランドや商店街独自のポイントシステム，プロモーションビデオでの事業紹介など，積極的なＰＲにも感心した。

○　空き店舗はなく，古きと新しきが混在してコラボレーションしている。人の通りは平日なのに日曜日の帯屋町より多い。

○ 高知でいう周辺商店街であるが，空き店舗もほとんどなく最寄りの品揃えとチェーン店がバランスよく配置されていた。
○ 周辺商店街といっても，駅中心にその周辺の人口は多く，その点は高知市と条件が異なるので比較には難しい点がある。
○ テーマカラーの配色バリエーションにより景観の変化を演出し，街並みの調和を図り都市景観形成地区となっているのは，まちづくりを心得た見事な商店街である。
○ 特色ある取り組みは他地域においても参考になると感じた。
○ 伊藤理事長の意欲には並々ならぬものがあり商店街をリードしている。
○ 何もしなければ商店街は無くなると，お客様とテナントのことを一番に考える理事長。それが商店街を素敵な通りに変えています。
○ 何よりも情熱を持った理事長・事務局長。街づくりは人づくりというが，こういった人材の確保の重要性を改めて感じた。
○ 地元商店・関係者が自分の商店街・地域をどうしていくのか，どうしていきたいのか。この姿勢がなければ行政がいろいろ提案しても成功しないと実感。